

施策評価（令和6年度）

施策評価調査

戦略5 健康・医療・福祉戦略			
目指す姿1 健康寿命日本一の実現			
幹事部局名	健康福祉部	担当課名	健康づくり推進課
評価者	健康福祉部長	評価確定日	令和6年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

全ての県民が健康上の問題で日常生活を制限されることなく、生きがいや豊かさを実感できる社会の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①～④】 健康寿命(男性)(年) 出典:厚生労働省「厚生労働科学研究班資料」	目標			73.91	—	—	75.21		n	令和6年 12月判明 予定 (令和4年 健康寿 命)
		実績	72.61	—		—	—				
		達成率				—	—				
②	【施策の方向性①～④】 健康寿命(女性)(年) 出典:厚生労働省「厚生労働科学研究班資料」	目標			77.38	—	—	78.75		n	令和6年 12月判明 予定 (令和4年 健康寿 命)
		実績	76.00	—		—	—				
		達成率				—	—				
③	【施策の方向性①～④】 要介護2以上の者(65歳以上75歳未 満)が被保険者に占める割合(%) 出典:厚生労働省「介護保険事業状況報 告」	目標			1.88	1.83	1.78	1.73		n	令和6 年8月 判明予 定
		実績	2.01	2.09	2.10						
		達成率			88.3%						
④	【施策の方向性①、②】 秋田県版健康経営優良法人の認 定数(法人) 出典:県調べ	目標			70	80	90	100	226.3%	4	
		実績	32	54	139	181					
		達成率			198.6%	226.3%					
⑤	【施策の方向性②】 受動喫煙防止宣言施設の新規登 録数(件) 出典:県調べ	目標			180	180	180	180	55.6%	0	
		実績	164	168	63	100					
		達成率			35.0%	55.6%					
⑥	【施策の方向性②】 12歳児における1人平均う蝕数 (本) 出典:文部科学省「学校保健統計調査」	目標			0.4	0.4	0.4	0.4	100.0%	4	
		実績	0.7	0.6	0.5	0.4					
		達成率			75.0%	100.0%					
⑦	【施策の方向性③】 特定健康診査の実施率(%) 出典:県調べ	目標			70.0	70.0	70.0	70.0	82.1%	2	
		実績	51.7	49.1	56.2	57.5					
		達成率			80.3%	82.1%					
⑧	【施策の方向性③】 がん検診(胃・大腸・肺・子宮頸・ 乳)の受診率(%) 出典:県調べ	目標			50.0	50.0	50.0	50.0	12.6%~29.8%	0	
		実績	8.4~17.4	4.3~15.2	6.7~13.9	6.3~14.9					
		達成率			13.4%~27.8%	12.6%~29.8%					
⑨	【施策の方向性①、④】 仕事や社会活動等を行った高齢 者の割合(%) 出典:県「県民意識調査」	目標			60.0	61.0	62.0	63.0	86.6%	2	
		実績	57.0	53.5	58.5	52.8					
		達成率			97.5%	86.6%					

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 \geq 100% 3点: 100% $>$ 達成率 \geq 90% 2点: 90% $>$ 達成率 \geq 80%
1点: 80% $>$ 達成率 \geq 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
2.00 (e相当)	4点 × 2個 = 8点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 0個 = 0点 0点 × 2個 = 0点
	2点 × 2個 = 4点
	合計 12点 ÷ 6個(判明済み指標) = 2.00

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-2 経過検証指標の状況と分析

	指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	備考
①	【施策の方向性②】 脳血管疾患による人口10万人当たり 年齢調整死亡率(人口10万対)	実績	35.0	34.7	(33.0)	32.9 (速報値)			令和6年9月判明予定
	出典:厚生労働省「人口動態統計」								
分析	<ul style="list-style-type: none"> 本県の年齢調整死亡率(人口10万対)は令和4年実績値が33.0と減少傾向にあるが、全国値(令和4年実績値24.1)より高い値で推移している。 「令和5年人口動態統計(概数)」を基に推計した令和5年実績の速報値は32.9であり、前年より0.1ポイント改善した。 								

2-3 主な取組状況とその成果

<p>【施策の方向性① 健康づくり県民運動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健医療団体、市町村、企業等で組織する秋田県健康づくり県民運動推進協議会について、マスメディアとの連携による会員の取組の紹介や、優れた実践活動を行う会員を表彰する「健康秋田いきいきアクション大賞」の実施等により、協議会活動の活性化を図った(秋田県健康づくり県民運動推進協議会に新たに44団体が入会し、令和5年度末時点で会員数は306会員)。 働き盛り世代の健康づくりを促進するため、秋田県版健康経営優良法人認定制度の県内企業への周知により健康経営の考え方の浸透を図るとともに、181法人を秋田県認定健康経営優良法人として認定した。 <p>【施策の方向性② 生活習慣の改善に向けた意識改革と行動変容の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 減塩、野菜・果物摂取の意識向上を図るため、「もう一皿野菜を食べようキャンペーン」を関係団体と連携して実施した(普及啓発資材配布先:スーパー80か所、コンビニエンスストア293か所、JA直売所28か所、大学等9か所、市町村・福祉環境部33か所)。また、「秋田スタイル健康な食事」の普及を図り、新たに5店舗28メニュー(累計28店舗133メニュー)を認証した。 働き盛り世代における運動習慣の定着を図るため、ウォーキングアプリを活用した企業対抗型のウォーキングイベントを実施(132団体、643人が参加)したほか、冬期間における運動不足を解消するため、商業施設を活用したウォーキングイベントを開催(延べ3,335人が参加)した。 若い世代等における喫煙を防止するため、学校及び商工団体と連携した啓発資材の配布や大学・短大・専門学校の学生に対するたばこに関する講義の実施(10校、845人参加)などの普及啓発を行った。 <p>【施策の方向性③ 特定健診・がん検診の受診の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全県の協力かかりつけ医(206か所)や、大曲仙北、横手、湯沢雄勝地区の歯科医(117か所)、薬局・薬剤師(60か所)による受診勧奨チラシを活用した受診勧奨を行った。また、がん対策推進企業等連携協定締結企業32事業所が、県民と直接接する場面等において、啓発資材を活用し受診を呼びかける取組を行った。 市町村が実施する胃、大腸、肺、子宮頸、乳がん検診について、罹患率の高まる年代を対象として、検診受診に係る受診者自己負担額の無料化または経費の軽減に対し、助成を行った(延べ11,718人受診)。 若い世代におけるがん検診受診の習慣化を図るため、20歳代の女性を対象として、市町村が実施する子宮頸がん検診受診に係る受診者自己負担額の無料化または経費の軽減に対し、助成を行った(延べ592人受診)。 <p>【施策の方向性④ 高齢者の健康維持と生きがいづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 老人クラブにおいて、地域の清掃活動や見守り活動等の地域活動を通じて高齢者が活躍できる場を創出し、高齢者の社会参加を促進した(地域活動を実施した老人クラブ数:延べ1,678クラブ)。 高齢者を中心とするスポーツと文化の祭典である全国健康福祉祭(ねんりんピック)に本県から108名の選手が参加したほか、県版ねんりんピックが8市町を会場に開催され、延べ1,837名が参加した。 フレイル予防啓発事業として、健康運動指導士と栄養士による、県民を対象とした研修会や出前講座を開催した(延べ29回、549人参加)。また、フレイル予防の指導を行う人材の資質向上のための講習会(1回、31人参加)、オーラルフレイル予防の指導を行う人材の資質向上のための講習会(7回、143人参加)を開催した。 									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
e	成果指標の達成率を基にした定量的評価は2.00で「e相当」であることから、総合評価は「e」とする。
	【定性的評価として考慮した点】

4 県民意識調査の結果

質問文		県民の健康づくりに取り組む意識が高まり、生きがいをもって元気に生活している。					
満足度		調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見		15.7%	12.5%			△3.2
	十分 (5点)		1.5%	1.6%			+0.1
	おおむね十分 (4点)		14.2%	10.9%			△3.3
	ふつう (3点)		52.9%	45.3%			△7.6
	否定的意見		20.8%	32.1%			+11.3
	やや不十分 (2点)		12.7%	19.9%			+7.2
	不十分 (1点)		8.1%	12.2%			+4.1
	わからない・無回答		10.6%	10.0%			△0.6
平均点			2.87	2.66			△0.21

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 健康に関して関心の薄い層や育児や仕事で健康づくりに取り組む余裕のない働き盛り世代における意識改革や行動変容にまでつながっていない。	○ 働き盛り世代の健康づくりを推進するため、年代や性別等に応じた効果的な広報手法について検討を行うとともに、「秋田県版健康経営優良法人認定制度」の拡大を通じた健康経営の考え方の普及を図っていく。
②	○ 令和4年度に実施した県民健康・栄養調査によると、県民(20歳以上)の野菜摂取量は286.4gと増加傾向にあるものの目標値には届いていない。また、食塩摂取量は10.1gと減少傾向にあるものの依然として多い状況にある。	○ 令和4年県民健康・栄養調査の結果を基に改訂した秋田県民の食生活指針を活用した、関係団体等との連携や出前講座、研修会などの普及啓発の取組により、「減塩」や「野菜・果物摂取の増加」における県民の意識改革や行動変容につなげる。
③	○ コロナ禍により落ち込んだがん検診受診率(胃・大腸・肺・子宮頸・乳)は、一部を除き改善傾向にあるが、コロナ禍前の水準には戻っていない。	○ 健(検)診予約システムの未導入市町村に対してシステムの導入を働きかけるなど、健(検)診を受診しやすい環境整備を進めるとともに、かかりつけ医等による受診勧奨などを通じて、健(検)診の受診促進を図る。
④	○ 令和2年4月から75歳以上の後期高齢者を対象にフレイル健診が開始されているが、全世代的な観点ではフレイルやオーラルフレイルの認知度はいまだ低い。また、啓発に携わる専門家の確保が難しい。	○ フレイル予防についての出前講座を通じて県民への普及啓発を図るほか、フレイルの兆候ともされる「オーラルフレイル」の予防についても普及啓発を強化する。さらにフレイル予防、オーラルフレイル予防の指導を担う人材を育成するための研修の開催を増やしていく。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「e」をもって妥当とする。
